

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4590300028
法人名	医療法人社団 康晏堂
事業所名	グループホーム 東海の里
所在地	宮崎県延岡市水尻町225番地1 (電話) (0982) 30-1833
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 4 月 28 日

【情報提供票より】(平成21年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 6 月 7 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 18 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 18 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,950 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	8 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.9 歳	最低 69 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	延岡市医師会病院・共立病院・黒木病院、まつだ歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の郊外の河口近くで、大きな川がゆったりと流れ、遠くに市街地が一望できる静かで環境に恵まれた広い敷地にホームは開設され、創設者のこの地に対する想いを石碑に刻み、その理念が活かされ、利用者も職員も笑顔で楽しく安心して生活している。また、定期的な医師や看護師の訪問で安心して落ち着いて過せるホームである。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開設後、初めての訪問調査である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	開設後初めての自己評価であるが、職員全員で前向きに取り組み、評価の意義やねらいを理解し、改善に向けて具体的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2~3か月毎に開催し、利用者、家族代表、地域住民、行政、地域包括支援センター、知見者、事業所代表者、職員により開催され、事業報告をするとともに、意見や要望を伺い、利用者が安心して暮らせるようサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に「意見箱」を設置しているが、家族等からの意見は運営推進会議以外にはない。日頃のケアの中で、些細なこともひやりハットとして記録し、適切な対応を心がけ、常に理念の「笑顔」を念頭に利用者一人ひとりに接している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の自治会に入り、回覧等で情報を得たり、ホームの行事が回覧されたことで地域住民の参加もあり、認知症に対する理解を深めるきっかけとなっている。また、散歩時に利用者に話しかけられるなど認知症に対する理解もできている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今を喜び地域の中で笑顔で暮らす」とする、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、全体会議で理念に沿った話し合いを行い、一人ひとりの人格を尊重し、尊敬の心で接するように心がけていることを、日常のケアの拠点としてしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に入り、回覧等で情報を得たり、ホームの行事が回覧されたことで地域住民の参加もあり認知症に対する理解を深めるきっかけとなっている。訪問調査日に近くの小学生が先生と通りがかりに立ち寄られ、肩を揉んでもらったと喜んでおられた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設後初めての自己評価であるが、職員全員で前向きに取り組む、評価の意義やねらいを理解し、日頃のケアを振り返り、気づきも多く改善に向けて具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3か月毎に開催し、利用者、家族代表、地域住民、行政、地域包括支援センター、知見者、事業所代表者、職員により開催され、事業報告をするとともに、意見や要望を伺い、利用者が安心して暮らせるようサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて電話したり、ホーム見学に訪れることもあり、行事参加への呼び掛けもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が利用料納入や必要物品、受診等での来訪時を利用して、近況を報告するようにしている。金銭の預かりはしていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いているが殆ど活用されていない。運営推進会議での家族代表の意見を運営に反映させている。	○	家族の来訪時を利用して、近況を報告だけでなく、意見、要望等を聞くように積極的に働きかけてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までに1名の離職者があったが、管理者やユニット兼務職員等で対処し、新規職員にもユニットリーダーが付き添い、利用者に影響が無いように取り組みをした。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に参加できるような体制がまだ整っていないので、職員が休みを利用して参加したり、復命報告もされていないのが現状である。	○	開設後毎月の会議、詳細に記録されたひやりハット等を自己研鑽の機会と捉えて行っているが、内部、外部研修の機会を設け、受講後復命書による研修を行うことにより、サービスの質の向上に取り組むことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの職員研修を契機に利用者や職員を招待し、一緒に食事をしたり、情報交換等を行うなどして今後も継続した交流を行う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前の見学の際に、利用者同士で会話するなどの雰囲気づくりと、その後も徐々に馴染めるよう居室に配慮したり家族の協力を得るなどの工夫をしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に寄り添いながら山菜のあく抜きや調理法、野菜の作り方を学び、時にはケアするときに優しい言葉かけをもらうなど喜怒哀楽を共にしている様子がみられた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時に本人・家族から思いや暮らし方の希望等を聞き、利用者の意見を尊重して、主体的な生活が送れるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、スタッフで話し合いを行い利用者や家族の意向などを取り入れた介護計画を作成しているが、担当職員や家族の意向が反映された計画として充分とはいえない。	○	職員全員が介護計画に積極的に関わりを持つように、日ごろの関わりの中で得た本人や家族からの意向や要望と観察した情報等を話し合い、介護計画にそった支援ができるように取り組んでほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに見直し、状況の変化に応じて担当者と話し合い、計画の追加・変更を随時行っている。	○	介護計画は、本人や家族、担当職員等と話し合い、状態の変化のない場合にも毎月評価を行い、新鮮な目で見直しをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、緊急時の受診や通院など柔軟に支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望により、当法人の医療機関へ変更し、医師が毎週水曜日に往診し、看護師も週2回訪問し様子観察をしている。また、歯科医師は必要に応じ往診があり、体調不良、異変があった際も適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化し、看取りの必要が生じた場合の対応として医療連携体制を利用契約書第8条に記載し説明して合意を得ているが、現在、該当する人はいない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人1人の人格を認め合い、人として対等な関係を築き上げていくように、常に寄り添い、笑いのある関係が築けるよう努めている。またホーム内の関係書類は持ち出しを禁じている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の話を良く聞き、不穏の時も時間をかけて話を聞いて、「今を喜ぶ」生活を目指し、一人ひとりのペースで生活できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に畑の野菜や山菜を採り調理し、職員一人が検食を兼ねて利用者と一緒に食事をしながらさりげなく介助している。また、利用者の意欲に応じ、準備、片付け等を職員とともにやっている。		職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しむことができるように工夫してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一人ひとりに希望により、その日の体調を考慮したうえで、毎日でも入れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	みんなで童謡や民謡を歌ったり、ぬり絵や書道と洗濯物を個人別にたたんだりする等一人ひとりの出来ることを負担にならないように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所へ散歩や山菜とりに出かけたり、季節ごとにドライブに出かけたりしている。希望がある場合には可能な限り、その都度対応していくようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、門扉と玄関には鍵を掛けていない。常に利用者を見守り、行動を把握し、外に出られる時には、職員も同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の連絡手段として、緊急通報訓練を行い、5月には防災訓練を行う予定である。	○	地域の人の協力を得られるよう自治会等にも働きかけてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を作るように心がけ、一人ひとりの食事摂取量の把握や水分摂取に努めているが、カロリーや栄養バランスについて実際に検討はされていない。	○	骨粗鬆症予防のため乳製品等の利用や、栄養士のアドバイスを受ける機会をつくってほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天窓からの採光と広いガラス戸が食堂と続きのホールを明るくし、皆さんが集まり、音楽やテレビ、談話しながら和やかに過ごされている。また、季節の花や作品、絵画等も掲示され住み心地よい環境作り配慮されている。		昔懐かしい音楽が絶え間なく流されているので、時には、静かな時自然のウグイスのさえずりもあることを検討されてはどうでしょうか。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と本人の希望で畳やベッドを使用し、一人ひとり使い慣れた物、写真やお位牌などあり、自分らしい居室づくりをされている。		